

教育行政キャラバン

子どもたちのためと言うけれど…

住む地域によって対応はばらばら



発行所
高松市田村町1033-3
TEL (087) 867-4797
FAX (087) 867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費を含む

香教組ホームページ
http://kakyoso.com/

三木町 ①県の動きが課題。財政的に厳しい。人材もみつからない。
②今のところはない。将来的には可能性はあるが住民の反対がある。
③田中小は、全校100人程度。存続させフリー校区にした。
④第2子、半年分無償。第3子、無料。子どもの貧困は社会の課題。親の生活への向き合い方や国の在り方に問題がある。
⑤7月から5月へと少し早めた。入学前に支給するには課題が多い。
⑧先生方が理解していると思っっている。イデオロギーの押し付けはいけない。子どもの多様な考えを尊重したい。
⑨部活動の改革をしようとしたが

①市町教育委員会独自で5人以下学級を進めて
②複式学級は解消を
③住民の合意のない統廃合の中止
④給食費の無償化を実現
⑤義務教育の入学準備金の支給を入学式より前に
⑥高校生の就学支援金の充実を
⑦大学生の奨学金の充実を
⑧「教育の政治的中立性」と現場への対応の見解を
⑨長時間過密労働の解消について具体的な対策は？



<高松市> 質問に答える久保学校教育課長

綾川町 ②複式の可能性がある。学年は、人を配置し解消する予定。
③現段階では統廃合はない。
⑤7月から5月に早めた。転出があるのが難しい。
⑦修学旅行費の補助を国の上限より増額している。町の育英資金（高校進学の際、無利子で3年間貸し付け、7年間で返済。町内居住、県内就職者は半額）がある。
⑧法律に準拠して考えている。必要以上に現場に働きかけるつもりはない。
⑨高松と同じ校務支援システムを導入した。部活動については、なかなか現実的には難しい。②数年後に複式学級になる学校がある。

丸亀市 ①35人以上の学級はない。
④厳しい。
⑤研究調査中。
⑥⑦入学金貸付制度がある。
⑧問題が起きたときに対応している。今のところ問題はない。
⑨給食費未納の徴収は学校給食会が行っている。高松と同じクラウドを入れてる。部活動は、駄目だった。学校事務員を町費で配置している。氷上小には、県の校務支援員制度を活用して学校司書を配置している。
坂出市 ①県費の加配教員を活用して35人以下学級を実施している。
④完全無償は難しい。
⑤転出があるので難しい。
⑧法律に準拠して先生方はやっていると思っっている。
⑨校長会を通じて話している。
多度津町 ①中学校は加配の数が足りなかった。
④厳しい。
⑤転出があるので難しい。
⑧先生方は法律に従ってやっていると考える。
⑨外部講師を配置するなど、配慮している。

まんのう町 ①町費で講師を配置し、全ての中学校で35人以下学級を実施している。
②該当の学級は、町費の講師を配置し複式学級解消をしている。
③2016年4月、琴南中を統廃合した。10年で生徒数が60数人から一けた6人になった。その他の統廃合は今はない。
④検討はしている。子どもを育てやすい町にしたい。
⑤支給を少しでも早めるよう努力したい。
⑥⑦対象の高校生に年間120万円（月額2.5万円）、大学生・大学院生に年間240万円（月額5万円）無利子で貸与。
⑧現場（の教職員）を締め付ける必要はないと思っっている。勤めにくいことはマイナスになると考える。
⑨学納金の集金は、学校教育課が行っている。学校では、未納の通知のみを渡してもらっている。

③5年以内に統廃合を考えている。検討委員会では、ある程度合意を得ている。地域の文化継承についても総合学習などで継続的に準備している。
④検討はしているが現実的には難しい。
⑤入学者の確定をどの段階でするか難しく頭痛いところ。少しでも早く出せるようにしたい。
⑥修学旅行費は、実費を全額補助している。対象の高校生には月額1万円給付、大学生には月額3万円無利子で貸与している。
⑨校長には、改善するように話している。中学校の部活動については、それほど過熱していないととらえている。スポーツ少年団とうまく競合しているのではないか。

高松市 ①5・6年を中心に生徒指導上必要がある場合は、市費講師を配置し少人数学級をできている。（毎年8校、35人以下学級の実現は、市長のマニフェストにも入っていることであり、実施したいと言っっている。
②③今のところはない。
④学校給食法の食材は保護者負担の原則に従っっている。給食費無償化は小さい市町が多い。「それはねらいが違う」ととらえている。
⑤支度金の支給時期については、検討はしている。審査・転出など解決できていない問題がある。
⑥公立・私立を問わず、給付型奨学金月額9000円を支給している。資格を満たす対象者には全員に給付している。
⑧法律に準拠して行われるべきと考えっっている。
⑨給食費未納者の集金については、給食費が学校私費としての性質上、学校が集金するものと考える。国全体として（給食費が）公会計されれば、検討する。部活動については、外部講師を派遣するなど教員の負担軽減を図っている。部活動休養日を効果的に活用しよう校長会などを通じて働きかけている。

いい方法がみつからない。
①県費の加配教員を活用して35人以下学級を実施している。
④完全無償は難しい。
⑤転出があるので難しい。
⑧法律に準拠して先生方はやっていると思っっている。
⑨校長会を通じて話している。
高松市 ①5・6年を中心に生徒指導上必要がある場合は、市費講師を配置し少人数学級をできている。（毎年8校、35人以下学級の実現は、市長のマニフェストにも入っていることであり、実施したいと言っっている。
②③今のところはない。
④学校給食法の食材は保護者負担の原則に従っっている。給食費無償化は小さい市町が多い。「それはねらいが違う」ととらえている。
⑤支度金の支給時期については、検討はしている。審査・転出など解決できていない問題がある。
⑥公立・私立を問わず、給付型奨学金月額9000円を支給している。資格を満たす対象者には全員に給付している。
⑧法律に準拠して行われるべきと考えっっている。
⑨給食費未納者の集金については、給食費が学校私費としての性質上、学校が集金するものと考える。国全体として（給食費が）公会計されれば、検討する。部活動については、外部講師を派遣するなど教員の負担軽減を図っている。部活動休養日を効果的に活用しよう校長会などを通じて働きかけている。

11月14日（21日）「教育をよくする県民会議」は、「教育行政キャラバン」で県内の11の市町教育委員会を訪問し、35人以下学級の推進・複式学級解消・統廃合の中止・子どもの貧困対策・教育の政治的中立性について・教職員の長時間過密労働解消の具体的な手立てなどについて要請しました。

学校が未納金を集金することはない。学校は教育に専念することが仕事だと考えている。発達障害に対応する支援センターをつくり、専門家3名を配置。年間を通して就学前から支援したいと考えている。教員の研修もそこで行っっている。不登校対策も積極的に行っっている。部活動については、それほど過熱してるとは認識していない。

栄養教職員学習会

「子どももわくわく 大人もわくわく 食教育実践」 ～給食の時間は宝物～



猪瀬先生(左)との出会いを語る
栄養教諭 十河さん(右)

11月19日 高松テルサで栄養教職員の学習会が開催されました。東京・京都・高知・兵庫など県外からの参加者もあり、20名を超える参加者で大いに笑い、大いに頷き、しっかりと学びました。

「人間形成としての食教育」を芯に、「子どもたちが自らチャレンジしたいと思える環境づくりをみんなですべて楽しく」やっけていくことが「夢」と語る猪瀬先生の講演に、参加者は

ぐいぐい引き込まれました。

「食わず嫌い」や「味覚の育っていない」子の偏食指導、食材や食べることにそのものに興味・関心をもってもらおう仕掛けなど、猪瀬先生がめざす「食を通しての人間教育」の姿が鮮やかに語られました。

参加者の感想

- もっと自分が勉強しなくちゃ!と思いました。「食べることは生きること。その人を映すもの」そう信じて子どもたちと関わっていきます。
- 若い栄養士や栄養教諭の方々に加え、教諭の方も参加された活気ある学習会でした。いろいろなことを参考にさせていただいて、「今後も頑張っていこう!」という気持ちになりました。
- 最近、悩んでいることもたくさんありましたが、お話を聞いて元気が出ました。「自分が思いを伝えたり、行動しないと変わらない」ということも実感しました。全国のみなさんとお話ができ勉強になりました。
- 多彩で楽しいアイデアがいっぱい。時間を忘れてお話を伺いました。知らなかったこともたくさんあり、また、他県の様子も交流できてよかったです。

翌日は、高知県で「生姜ほり」体験



生姜採れたて!

教材研究!も
ばっちり!

給食指導、特に偏食指導はなかなか大変です。最近では、「家庭で料理をしない」「嫌いなものは食卓に出さない」など子どもたちを取り巻く食生活も変わってきました。

「食べられない子」はいつの時代にもいます。「量の問題」「味覚の問題」「食材の触覚の問題」など、偏食の子どもたちが抱えている課題はいくつかに分かれます。

赤ちゃんは、苦いものが苦手です。人間の一番原始的な味覚は「苦み」。これは、命を守るために備わっている力です。そこから、まわりの大人の食べている様子を見て、「苦み」の中でも大丈夫なものを学んでいきます。そうするうちに味覚が育ち、味わって食べることができるようになります。ですから給食の時間は、みんなでどんなものも「おいしい!」と言いながら食べてみてはどうでしょう。そのうち、脳がこの味は「おいしい」んだとキャッチしてくれるはず。苦

シリーズ子どもとかわる⑭

「食わず嫌い」と「味覚の幼児性」

手なもの「嫌いなもの」をいきなり全部食べさせるのは逆効果。一口食べたらいかに認め、「食べなくてもいいよ。残念やね。」こんなにおいしいのに」と言ってみるといつか一つの方法です。自閉症の子どもの中には、感覚過敏なタイプが多いのですが、定型発達の子どもの中にもこのタイプは時々います。この場合も、やはり「少しずつ」です。かつて、ひじきの煮物の「ひじきが口の中に刺さる」といった子がいました。少しずつ馴らし、半年くらいで食べることができるようになりました。

食の細い子については、もともと胃が小さい子もいます。また、よく嘔むので満腹中枢が働いてしまう子もいます。最終的には、「自分で食べるものや量を決められる子」になればいいのです。給食指導は、「笑顔」「少しずつ」「認める(褒める)」が原則です。地道な道のりです。

中央委員会開催のお知らせ

2016年12月17日(土) 9:00~
香教組会館2F 会議室

やむを得ず欠席の場合は、代理の方を選出してください。

小黑板

2016年度、高松市は「ストレスチェック」を義務付けた。業務付けた。ちようど運動会後、教職員が疲れを見せるころに実施された。なかなかいいタイミングだった。▼要面談に該当したので、面談を個人メールで申請して見た。2か月経っても何の音さたもないので、封書で申請書を改めて送った。▼「びっくりした」。フリーメールははじかれる。はじかれたことが、送り手にはわからないことが、今回初めて分かった。と言いわけの連続。▼挙句の果てに、「あなたは、ストレスが高そうなので心配ですが、締め切りが過ぎていたので、自分で相談してください」とのこと。▼「申請はメールか郵送で」

こころでも自己責任

と書かれてあり、どのメールを使うようにという指定はなかった。校務メールは、管理職もチェックできるメールだ。心情的には、人には知られたくない。▼あくまでも「はじかれるようなメールを使ったのが悪い」というように聞こえた。結局、自分で相談することになりはなかつた。▼県教委健康福利課は「ストレスチェックで自分の状態を知ることが大切」と。つまり「ストレスが溜まっていることを自覚し、自分で対策を取れ」ということだった。▼長時間過密労働も病気休職も自己責任ということなのか。教職員が大切にされているとは思えない。こころでも自己責任か。